

令和7年度三豊市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会要旨

1) 日時

日時：令和8年2月25日（水）午後2時から午後3時35分

2) 出席者

委員）原委員長、岩倉副委員長、岩本委員、池田委員、金山委員、岩本委員、安藤委員、増田委員、西原委員、前川委員（委員計10名）

事務局）石原政策部長、富田地域戦略課課長補佐、山岡地域戦略課課長補佐、三録主任、原主事

3) 議題

- (1) 第2期三豊市まち・ひと・しごと創生総合戦略の達成状況について
- (2) 地域再生計画認定事業の進捗状況について
- (3) 三豊市過疎地域持続的発展計画に関する最終評価について
- (4) その他

4) 配布資料

- (資料1) 第2期三豊市まち・ひと・しごと創生総合戦略の達成状況
- (資料2) 地域再生計画認定事業の進捗状況
- (資料3) 三豊市過疎地域持続的発展計画に関する最終評価について
- (資料3) 別紙 三豊市過疎地域持続的発展計画の最終年度評価シート
- (資料4) 令和7年度三豊市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 各委員からの質問等に対する回答

5) 会議要旨

(原委員長)

議事1「第2期三豊市まち・ひと・しごと創生総合戦略の達成状況について」、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

資料1 第2期三豊市まち・ひと・しごと創生総合戦略の達成状況に基づき説明

(原委員長)

ただいまの事務局の説明に対し、委員の意見を伺う。

(原委員長)

昨年度、第3期三豊市まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下、第3期総合戦略という)策定に向けて議論し、改善を行ったところだが、今回は改めて第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下、第2期総合戦略という)の結果を踏まえて、意見をいただきたい。

(原委員長)

定量的な数値目標(KPI)で達成状況を管理しているところであるが、内容面をしっかりと押さえることが重要ではないか。例えば、資料1の4ページ、基本的方向2のKPIで、“地域おこし協力隊員(任期終了後)の創業及び市内定着(単位:人)”は、数値だけを見ると未達成という形になっているが、例えば薬用作物の栽培普及のために着任された協力隊員は、三豊市ならではの農家の実情に合わせた有意義な取組みを進め、非常に重要な役割を果たしている。

次の第3期総合戦略では、数値の達成・未達成だけで判断せず、地域に対してどのような成果をもたらしたかを検証することが必要ではないか。

(事務局)

委員長ご発言の通り、地域おこし協力隊は徐々に人数も増え、非常に幅広い分野で活躍をされている。薬用作物については、栽培面積5ヘクタール、栽培量5トンを超えた。産地化に向けて、外部人材も活用しながら積極的に進めていきたい。また、離島振興や教育分野でも協力隊員を登用しており、一人ひとりの今後の活動が目に見える形でPRできるように検討してまいりたい。

(原委員長)

事務局の説明によると、全ての領域に共通する指標としては“地域おこし協力隊員の登用数、市内定着数”が適切であるが、薬用作物に関しては、栽培面積等、個別の領域に適した成果を示す指標が出てくるのではないか。そういったことを補足し、地域おこし協力隊員ごとの成果を参考として付け加えられたら非常に良いのではないかと思う。

(岩本(直)委員)

数値として見えない成果という部分で、情報提供させていただきたい。基本目標4、基本的方向1のKPIで、“AIによる課題解決件数”については、実績では1件のみとなっているが、これは市が把握している件数であると思われる。民間企業ではもう少しAI活用が進んでいて、実装段階に進んでいる企業もあり、10件とまではいかななくても、全く進んでいない状況ではないと思う。

(事務局)

民間企業ではAIの活用が進んでいることは認識している。市として、課題解決件数というところで“1件”という実績をお示ししているが、民間企業や香川高専とも連携しながら、これからも率先して進めていきたい。

(原委員長)

AIの活用について、三豊市はかなり重視してこれまでやってきているので、方向性を占う意味でも、第3期総合戦略ではAIがどう活用されているか、定期的に包括的な調査を工夫してやってみる価値があるのではないか。

(岩倉副委員長)

KPIとしては課題「解決」までを件数として挙げているが、達成まではいかななくても、「着手」を含めれば、民、公、学も含めると100件くらい出てくるのではないかと感じている。民間企業、個人が取り組んでいることは多々ある。AIを活用している場所や機会があることを、市が把握していなくとも、民間の人々が把握できるようにするのも一つの手ではないか。

(事務局)

原委員長のご発言のとおり、件数だけにとらわれず、“1件”のバックグラウンドに隠れている成果をしっかりと把握し、モノづくりの現場などで共有する場面を作りながら進めていきたい。

(原委員長)

東京大学大学院の松尾研究所が世界的に最先端の技術開発をされているのに対し、ChatGPTなど汎用性の高いAIを、我々エンドユーザーはどう使ったらいいのかという課題がある。AIを使った地域活性化のためには、地域全体にエンドユーザー的なAIの使い方のポイントを共有、浸透させることが大事である。岩倉副委員長から「AIを活用している場所や機会」というご発言もあったが、自然な流れで課題が持ち込まれて、そこで気軽に相談が出来て、高度な専門的なところからビギナーまで、階層ごとにふさわしいアドバイスができる場を丁寧に提供する必要がある。

(前川委員)

報道の現場でAIを使って原稿を書くことに対しては疑問の声もあったが、実際、今回の衆議院議員選挙で候補者の第一声を読み込ませてどういった言葉をよく使っているか、どういった文脈を主張しているかを分析してもらってニュースに出したということもあり、やろうと思えばいろいろなことができることは感じている。第2期総合戦略においては、計画の1か所に

しかK P Iとして入っていないが、各部署が、評価にあたりA Iの活用の状況を必ず入れることにすると、各目標においてもA Iをどう使うかを考えなければいけなくなる。そういった評価の仕組みに変えるのも方法の一つと考える。

(原委員長)

最初は不安、疑問はあると思うが、皆がまだ試行錯誤している段階なので、失敗してもいいという状態を作って、失敗も一つの成果だと捉えて共有する文化があればよい。本学において地域の要素を生かした脚本づくりの授業を行ったが、そこでA Iを使ってよいということにした。学生には、自分がどういった能力を身に着けたいかをよく考えて、自分がどのようなポジションに立つかによってA Iの使い分けがあるという情報を提供した。レポートではA Iの使い方での苦労した点、改善点について、試行錯誤したことが書かれていた。そういったことを成果として共有しあうことによってエンドレベルでのA Iの使い方は習熟していくと思っている。

(原委員長)

それでは議題2、「地域再生計画認定事業の進捗状況について」、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

資料2 地域再生計画認定事業の進捗状況に基づき説明

(原委員長)

ただいまの事務局の説明に対し、委員の意見を伺う。

(前川委員)

「宝山湖ボールパーク夢いっぱい事業」について、事前の質問にもあったが、ボールパーク内ではスポーツができるが、そこまで自転車で行こうとしても車道しかない。道路の整備にはお金がかかりすぎるのは理解できるが、スポーツをしに行くのに自動車以外の交通手段がないのはいかがかと思う。バス以外のアクセス方法については。

(事務局)

車以外の移動手段などのアクセスについては、令和8年4月からバス停を作る認可を受けて進めているところである。タクシー事業者に聞くと、電車で来てボールパークまでタクシーという方が多い。バイクロードレースなどで周りを周遊できるコースについては整備されているため、使っていただきたい。

(前川委員)

健康施策にもなるので、健康増進施設の象徴的な施設として、もう少し浸透すればいいと思う。スポーツのみならず、ウォーキングやサイクリングなど、安全に車を気にせずに歩ける場所は意外と少ないので、総合的に球技以外でも使える施設になれば良いと思う。

(金山委員)

財田町在住者として、宝山湖ボールパークは身近に感じている場所である。課題として平日の大会等開催件数が少ないとのことで、資料2に「高齢者や乳幼児向けの事業を展開していきたい」とあるが、今のところ何か案はあるか。

(事務局)

カマタマーレ讃岐との連携により、高齢者向けには、体を動かすことで介護予防などに寄与する教室などを検討しているとのことである。乳幼児向けという点では、市内の小学校や中学校、幼稚園などの子どもたちに、広いパークで体を動かしてもらい、といったことも検討していると認識している。

(増田委員)

同じく宝山湖ボールパーク夢いっぱい事業で、KPI“民間企業による地方創生事業の開催件数”の進捗が【遅れ】となっているが、具体的にどういった活動をされているのか。イメージしにくいのでご教示いただきたい。また「こういったことができる」と発信が出来れば件数も増えるのではないかと考える。

(事務局)

カマタマーレ讃岐と宝山湖公園を拠点に、“スポーツを核とする地域活性化に関する協定”を結び、スポーツのみならず、それを核とした事業の展開により、交付金の目的である地方創生を目指していきたいという思いから、このような表現となっている。具体的に何が地方創生なのかは見えにくいところもあるが、周年イベントや、カマタマーレ讃岐の中学生ユースチームの練習、また、ここではラグビーもプレイできるので、教室や大会の数をカウントしている。

(原委員長)

地域再生計画認定事業は具体的な事業であり、KPIもそれぞれに即したものが設定されている。そこが総合戦略の数値目標(KPI)と異なる点である。

(原委員長)

他に意見がなければ議題3に進むこととする。議題3、「三豊市過疎地域持続的発展計画に関する最終年度評価について」、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

資料3 三豊市過疎地域持続的発展計画に関する最終年度評価について、及び

資料3 別紙 三豊市過疎地域持続的発展計画の最終年度評価シートに基づき説明

(原委員長)

ビジネスと地域の共生、振興についての取組みも、項目別(分野別)に分けるのではなく、繋げていくことで相乗効果により、効果が増大すると思われるが、そのあたりの取り組み方、工

夫についてはどのような状況になっているか教えていただけたらありがたい。

(事務局)

過疎地域の中で人口が少ないことによって、交通（財田町乗り合いタクシーなど）、その他事業、新たなビジネス化の可能性もある。民間事業者の方とも情報交換しながら、住んでいる方が生活を維持できるような施策を検討していく。

(原委員長)

金山委員、財田町在住者として、ご意見はないか。

(金山委員)

今回委員に選任されて資料を読み、初めて知ることばかりで、事前に質問をいくつか書かせていただいた。市外出身だが、三豊市に住んでみて不便など、疑問に感じることはなかった。ただ自然が豊かであるとか、周りに住んでいる方もいい方ばかりと感じていた。その中で、実生活で一番不便を感じるのは交通のことだと思う。月曜日から土曜日まで運行されているコミュニティバスを高校生の娘が通学に利用しており、助かっている。

(事務局)

本市のコミュニティバスは全体で 23 万人の方にご利用いただいている。片道 100 円で、乗り継ぎ券も発行し、「行きたいときに、行きたいところへ、行けるまち」を目指して運行しているが、バスのみでは細い道路までカバーできないところもある。財田町はタクシー事業者が廃業され、デマンドタクシーを実証運行させていただいている。また、詫間町の粟島においては、グリーンスローモビリティを運行し、大浜地区では今年度、互助輸送の実証を行った。交通の考え方はいろいろあるが、その地域に何が適しているのか、試行錯誤しながら地域の実情に合った交通体系を考えているところである。

原委員長から先ほどご意見いただいた、地域の企業との関わりについてであるが、本市には大学が無いため、高校を卒業すると同時に市外に転出し、卒業後に戻ってくる子どもが少ないということが統計的に表れており、若年層にターゲットを絞った移住・定住施策を打出している。しかし、地域の企業がどんな仕事をしているか知らない、という学生の声もある。そんな中、地域おこし協力隊の一人が、地域の働く人にフォーカスした教科書の作成をしており、これは香川大学とも連携し、子どもたちに、幼いころから地域の人がどんな仕事をして、どんな会社があって、ということに興味を持ってもらうための取組みである。また、昨年度からは地域の人事部という取組みを始めた。これは中小企業の弱点である、人事関係のマッチング、営業など、手薄になってしまうところをみんなでカバーしていこうというもので、過疎地域をはじめ市内の企業の魅力を発信し、転出していった後も帰ってきていただけるように、シビックプライドの醸成も含めて進めていきたい。

(原委員長)

地域の人にフォーカスした教科書、地域の人事部など、非常に興味深い取組みである。他に意見はないか。

(委員)

意見なし

(原委員長)

それでは議題4に進むこととする。議題4、「その他について」、事務局より説明をお願いする。

(事務局)

今後の総合戦略及び本委員会の方針について説明

(原委員長)

委員より、質問、意見はあるか。

(委員)

意見無し

(原委員長)

他に質問や意見はあるか。

(岩倉副委員長)

過疎地域については仁尾町、詫間町は商業のまちであり、これからイノベーションに大きく関わるまちであると考えている。数値的にみると定住者は減っているが、関係人口は増えている。数字は正直であるが、数字だけでは見えない部分を第3期総合戦略でどうやって把握していくかが課題である。また、県外の方からも宝山湖は認知されている。定住者が少子高齢化の影響により、自然減となるのは仕方がないと受け止めつつも、ホットスポット的な形でピックアップできるものがあるのは、他の地域では見られない強みとなる可能性がある。数値的にはいろいろな問題があるにしても、全体的には三豊市は全国的にも注目されるであろうと考えている。

(原委員長)

岩倉副委員長から意見があったが、三豊市は日本全体にかなり知られていて、父母ヶ浜など、成功事例として語られることも増えている。ただし、プラスの部分をも人口に反映していくには、もう一つ工夫がいるのではないか。次期総合計画では、表に出ている部分と、表には出ていないが重要な部分を把握していくと良いのではないか。

それでは本日の議事はこれまでとさせていただきます、事務局に進行をお返しする。

(事務局)

本日いただいた意見等については、各事業の担当課に申し伝えて、効果的な地方創生事業を推進してまいりたい。最後に石原政策部長より挨拶を申し上げます。

(政策部長)

挨拶 (省略)

(事務局)

以上をもって令和7年度三豊市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会を閉会する。

以上